

第7回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和2年5月20日（水）※書面開催
- 2 参加者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、杉山委員、菟澤委員
事務局：府川課長、森係長、岡崎主査
- 3 資料：
 - ・次第
 - ・資料1-1 令和元年度おだわら市民交流センター会議室等の利用状況
 - ・資料1-2 市民活動団体登録状況内訳（令和元年度末）
 - ・資料1-3 おだわら市民交流センターへのご意見・ご要望（令和元年度10月～3月分）
 - ・資料1-4 令和元年度UMECO事業一覧と実施時期
 - ・資料1-5 令和元年度おだわら市民交流センターUMECO実施事業報告
 - ・資料1-6 おだわら市民交流センター指定管理者自己評価表（令和元年度分）
 - ・資料2 平成元年度おだわら市民交流センターUMECO第三者評価シート
 - ・資料3 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について
 - ・資料4-1 提案型協働事業（令和3年度実施分）の募集及び審査について
 - ・資料4-2 市民提案型協働事業第1次審査実施要領（案-1 審査会を開催する場合）
 - ・資料4-3 市民提案型協働事業第1次審査実施要領（案-2 書面会議とする場合）
 - ・資料4-4 市民提案型協働事業第1次審査採点表（案）
 - ・資料5-1 市民活動団体と地域との連携に関するアンケート集計結果（再集計分）
 - ・資料5-2 諮問事項に係る視察報告

4 会議内容

- 議題（1）おだわら市民交流センターUMECO令和元年度事業報告について（資料1-1～1-6）

【質疑応答】別紙「質疑応答一覧表」のとおり

【意見等】

[資料1-1 関連]

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を記録するため、可能であれば利用状況の数値について、「UMECOから利用をお断りした」、「団体から利用の辞退があった」など、把握できれば意味がある。
- ・質疑応答の中の会議室稼働率が70%程度である件は、利用集中時間帯は予約が埋まっている状況なのだろうが、曜日別、時間別の詳細な利用状況をデータ化することで、曜日別、時間帯別料金の見直しの検討材料になるのではないかと。また、利用者の属性や使用用途の分析も必要である。

[資料1-5 関連]

- ・報告の際、グラフ等を使用し、より可視化したものがあると良いと考える。
- ・活動エリアの稼働率向上に取り組んでいただきたい。
- ・前年度の実績値と比べて実績値が低下している事業がある。課題・対応はその要因を踏まえた書き方にしていただきたい。
- ・UMECO祭りは毎年恒例の行事として定着してきていると考えられる。そろそろ、開催回数、参加団体数、参加者数のみではなく、「質」の評価も必要ではないかと。アンケートの活用など、検討していただきたい。
- ・別紙1の企画展について、団体名に記されている市の担当課が限定されている。提案型協働事業を実施している課を中心に呼びかけをしてもいいのではないかと（地域政策課も含めて）。
- ・別紙4の地域活動団体ネットワーク形成事業について、毎年度のことであるが、活動団体に偏りがあるため、工夫が必要である。

- 議題（2）おだわら市民交流センターUMECO第三者評価について（資料2）

【質疑応答】別紙「質疑応答一覧表」のとおり

【評価結果】別紙「第三者評価に係る意見集約シート」のとおり。次回の会議で内容を確定する。

■ 議題（３）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について（資料３）

【意見等】

- ・報告会の中止はやむを得ない。また、報告書等のホームページへの掲示も問題はない。
- ・実施事業については、何らかの形での評価が必要である。

【審議結果】

- ・資料３のとおりとする。事業の評価については、資料３の例示のとおり市民活動推進委員会において実施する。

■ 議題（４）市民提案型協働事業の募集及び審査について（資料４-1～4-4）

【意見等】

- ・出席者間の距離をとるなど、新型コロナウイルス感染症対策の工夫を行った上で、審査会を開催することが望ましいと考えるが、第二波、第三波が大きくなった場合には再考の余地がある。

【審議結果】

- ・資料４-2～4-4のとおりとする。

■ 議題（５）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」

①アンケート再集計（資料５-1）

【意見等】

- ・現状では集計結果のみが資料として提示されているため、各委員からの意見が出にくいのではないかと。A４版２～３枚程度で、アンケートの目的と構造、何が傾向として明らかか（あるいはそのように捉えてよいか）などをまとめると、課題が明確になると考える。
- ・この集計結果から、どういう対応が今後の連携拡大やその充実につながるかを読み取るのは大変難しい。各団体の意向がどういうところにあるか、今回の諮問事項に対してどうアプローチしていけば良いのか。なかなか難しいと思う（データ解析や論点の整理を期待したい）。当委員会がルーティンに行っている「市民提案型協働事業」の審査や、「市民活動応援補助金」の審査など、同時並行的に対応する中では、諮問事項により深く、じっくりと研究し、議論を重ねることが十分にできないのではないかと。
- ・アンケートだけで終わらせず、ここから見えてきたものを、より効果的に次なるステップにつなげてほしい。
- ・回答の％を回答団体数（法人・任意団体を含めた２１１団体）全体で表示しているが、法人の回答占有率が全体の９％しかないため、特徴の把握が分かりにくく感じた。両方を合計した数値とその割合を示し、法人及び任意団体で区分したものはそれぞれの数を母体にして割合を示す方が分かりやすいと思われる。
- ・資料５-1、３ページのＱ１０について、「法人は、無償での協力は難しいと感じている。」とする分析コメントがあるが、会場費を団体が負担することを前提とした質問であればこのような回答になるのではないかと。会場に関する負担が大きく出ているのはそれが事由と感じる。
- ・UMECOの登録団体のブロック別の比較によると、比較的近隣の地区の利用や事業への関心が高いように感じる。市内の支所が閉鎖になったので、今後UMECOへの期待が他の地区からも増加するかもしれないが、全市を対象に周知アップを図ってほしい。
- ・地域と市民活動団体の連携が進まない原因を、地域の負担が増えると考えている団体の割合が多いように感じた。無理に政策を押し進めることで、地域に余計な負担をかけないように、慎重に事業を進めてほしい。名簿の周知率が低く、ネットワーク形成事業との関連を理解していただけない可能性があると感じるので、丁寧な説明が必要である。

②視察結果報告（資料５-2）

【意見等】

- ・各市について視察の目的（あるいはポイント）を書いた方がよいと思われる。
- ・京都市の自治会町内会&NPOおうえんポータルサイトの試みは興味深い。利用しやすいサイトの作成のためには、それなりの資金と徹底的な周知は必要となるが、企業、NPO、自治会等をつなぐ一助になると考える。

- ・京都市の「自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」は、良いコンテンツであると思われる。自治会活動の支援情報、NPO法人との連携を意識した一体化など小田原市で取り入れられればと感じた。小田原市では自治会総連合の紹介ポータルとUMECOのポータルがそれぞれ別にあるが、相互の連携といったイメージはあまり感じられない。
- ・2つの団体の活動の工夫や抱える問題がよく理解できた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、良い事例をそのまま取り込むことは今後難しいことも多々あるかと思うが、参考にできることはぜひ取り込んでいていただきたい。

■ その他

- 【会議日程】 第8回会議…令和2年7月4日（土）
第9回会議…令和2年7月29日（水）

質疑応答一覧表

No	議題等	質問	回答
1	(1) 資 1-1	市民活動団体と企業等の利用割合はどのようになっているか。	会議室の利用コマ数 24,346 のうち、UMECO登録団体 5,818 (23.9%)、その他 18,528 (76.1%) である。
2	(1) 資 1-1	会議室の稼働率 70%というのは意外に低いように感じる。予約がとりにくい印象があったが、当日キャンセル等が多いのか。	平成 29 年度は約 80 件、平成 30 年度は約 100 件、令和元年度は約 60 件の無断キャンセルがあった。なお、UMECOは 1 時間単位で貸し出しており、稼働率 70%は 12 時間中、3～4 時間空いている状態であるので、利用者が希望する時間帯、時間数での予約がとりづらくなっている。
3	(1) 資 1-2	市民活動団体登録状況で、活動地域の「市内一部」「その他」の意味は何か。	「市内一部」 団体登録時に、「活動地域」として「市内一部」を選択し、かつ特定の地域を指定している場合にカウントしている。 「その他」 団体登録時に、「活動地域」として「市内一部」を選択し、かつ特定の地域を指定していない場合にカウントしている。必要性に疑義があるため、令和 2 年度より本選択肢を削除する予定である。
4	(1) 資 1-2	UMECO開設当初からの、年度ごとの新規登録団体数・人数、登録抹消団体数・人数はどのようになっているか。	新規及び抹消の登録団体数(年度末の登録団体数・人数)は次のとおりである。抹消の多くは、登録更新をしないことによるものである。なお、新規登録及び登録抹消の人数については把握していない。 平成 27 年度:新規 351 団体、抹消 5 団体(年度末 346 団体・92,723 人) 平成 28 年度:新規 75 団体、抹消 25 団体(年度末 396 団体・94,395 人) 平成 29 年度:新規 59 団体、抹消 40 団体(年度末 415 団体・93,237 人) 平成 30 年度:新規 41 団体、抹消 65 団体(年度末 391 団体・87,482 人) 令和元年度:新規 48 団体、抹消 30 団体(年度末 400 団体・92,423 人)
5	(1) 資 1-4	声の万華鏡の準備期間は長いと思うが、UMECO祭りのように表示しないのか。	本資料では、イベントの準備期間については、UMECO祭りのように大規模な場合のみ表示している。 声の万華鏡の実行委員会は、参加団体により実行委員会を立ち上げ、UMECOも事務局として運営に携わっている。実行委員会は前年度の 8 月からスタートし、毎月実施している。
6	(1) 資 1-5	UMECO企画展の実績が前年度を下回った要因は何か。	前年度に比べて、展示期間が長いものが多かったため、開催回数や参加団体数が減った。
7	(1) 資 1-5	UMECO企画展について、希望したがスケジュールが合わず展示できなかった団体の数を教えていただきたい。また、展示物が破損、紛失した団体はあったか。	希望した団体はすべて展示することができた。 展示物を破損、紛失した団体はなかった。
8	(1) 資 1-5	登録団体の紹介冊子を置いたことによる効果および閲覧数はどうか。	団体の活動内容を知りたい方に活動紹介冊子を案内し、情報を提供できた。 窓口で手続きしなくても自由に閲覧できるため、閲覧数は把握していない。
9	(1) 資 1-5	登録団体の登録方法の簡略化について、検討内容を教えていただきたい。	令和元年度までは来館での受付のみだったが、令和 2 年度からはこれに加え、ホームページへの入力、FAX、郵送での受付ができることとした。

No	議題等	質問	回答
10	(1) 資 1-5	市民活動団体への資金面への支援について、221,270 円の寄附があった一方で、UMECO市民活動応援補助金は該当なしとなっている。この寄附金の取扱いはどのようなになっているか。	寄附金は令和3年度交付事業に繰り越し、該当があれば補助金を交付する。なお、令和3年度交付事業は、令和2年度末に選定を行う予定である。
11	(1) 資 1-5	市民活動団体と事業者との協働事業について、実績が減少している理由は何か。	3月21日に実施予定だったスプリングフェスティバルが新型コロナウイルスの影響で中止になったため、実施回数が3回から2回に減少した。
12	(1) 資 1-5	行政や地域とのまちづくり委員会との情報交換の働きかけは、どこが行ったのか。	まちづくり委員会の所管課である地域政策課の担当者と連携を取りながら、UMECOが主体的に実施した。
13	(1) 資 1-5	学生支援ティーサロンの収益はどれぐらいか。また、その収益は「S.P.A.C.E」の活動費としていかされているのか。	ティーサロンの参加費収入は41,270円だった。これは「S.P.A.C.E」の収入ではなくUMECOの収入であり、ティーサロンの経費として用いている。 なお、UMECOはティーサロン以外にも、「S.P.A.C.E」の自主活動を支援している。
14	(1) 資 1-5	わくわく交流会の回数減の理由は何か。	5回の予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、年度末における開催を中止したほか、2回実施後に、団体同士の連携による活動等について課題が見えたため、そのフォローアップを優先した。
15	(1) 資 1-5	UMECO祭り、声の万華鏡、わくわく交流会、新春交流会において団体数や参加者数に減少がみられるが、理由は何か。	UMECO祭り：朝が悪天候だったため、参加者数が減少した。 声の万華鏡：高校の参加増加を見込んでいたが3校に留まったため、参加団体数が減少した。 わくわく交流会：予定より実施回数が減少したため、参加者数も減少した。 新春交流会：団体の高齢化のため、参加団体数や参加者数が減少した。
16	(1) 資 1-5 別紙 1	UMECO企画展の2、3月分は予定どおり実施できたのか。	展示は実施できたが、出展者が減った展示もあった。(3月の総合学習の成果発表は他にも出展予定の小学校があったが、新型コロナウイルスの影響で辞退された。)
17	(1) 資 1-5 別紙 2	相談案件によっては団体を紹介しているが、その後、相談した団体や紹介された団体から連絡はあったか。	連絡があったものもあるし、連絡がないものもあった。来館時に声かけを行うなど、フォローアップに努めている。
18	(2) 資料 2	数字や文字の羅列では、感覚的な分析がしづらいように感じる。最終的な数字を、レーダーチャートで表示することはできるか。	6月10日以降、各委員の評価結果をとりまとめ、評価文案等をご確認いただく予定であるが、その参考資料として、評価点(全委員の平均点)をレーダーチャートにより可視化し、お示しすることは可能である。

第三者評価に係る意見集約シート

※各意見の区分について

「成果」・・・成果と言える点、評価できる点

「課題」・・・課題である点、改善すべき点

「要望」・・・上記以外の要望等

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【3.8点(4点:8人、3点:2人)】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	登録団体数が目標値を超えており、多くの団体がUMECOを市民活動支援の拠点と認識してアクセスした。	登録団体数が目標値を超えるなど、多くの団体に市民活動の拠点として親しまれている。
	イ	立地と施設の良さがPRされ、登録団体を着実に増やしている現状は評価される。	
	ウ	数年の実績により、多くの団体が「市民活動の拠点」という親しむ思いを抱いている。	
	エ	UMECOを活動の中心と考える人が増加しているため、登録団体数は増加している。	
	オ	登録方法の選択肢を増やしたことで、登録数が増えたことは評価できる。	
課題	カ	活動エリアの稼働率が22%と低いため、団体の活動の場として十分活用されるよう方策を検討していただきたい。	活動エリアの稼働率が低い要因を、利用していない団体も対象にしたアンケート等により把握し、より活用しやすい場を提供していただきたい。
	キ	活動エリアの稼働率は、A～Dのばらつきの要因を踏まえて対策を検討願いたい。	
	ク	活動エリアが低稼働な要因等を把握するため、アンケート等を実施し、より活動しやすい場を提供してほしい。	
	ケ	オープンスペースとすることにより、他の団体との交流も狙うところではあるが、必要に応じて移動パーテーションを設けることも有効と考える(注意力が散漫せず活動に専念できる)。	
	コ	有料で良いので、よりつながりやすいネット環境を考察していただきたい。	
	サ	登録はしたものの、活用していない団体が多いのではないかな。	企画展については、提案型協働事業との連携、若手の発想の取込、内容や期間の見直し、観覧者へのリサーチの充実等により、事業の活性化を図っていただきたい。
	シ	企画展については、募集方法の工夫、内容の見直し、テーマ設定による連携出展等により、参加団体数を増加、内容を充実させ、事業の活性化を図っていただきたい。	
	ス	企画展について、市に対しても提案型協働事業を実施している課に参加を促すことを検討していただきたい。	
	セ	企画展のアイデア出し、募集に若手の発想なども取り入れてみては。	
	ソ	企画展は、参加団体が増やせるように開催期間を調整するなどの工夫を考えてみてはどうか。	
	タ	企画展は原則何日と決めても良いのではないかな。	
	チ	企画展の一般の観覧者の反応を調査してほしい。	

②相談・支援機能【3.8点(5点:1人、4点:6人、3点:3人)】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	目標値を上回る相談に対し、助言や団体紹介等の支援をした。	相談件数が増加しており、市民活動に関わる相談対応窓口として積極的に取り組んでいる。
	イ	いつでも相談にのってくれる場所がある、笑顔で受け止めてくれる人がいる、ということは活動している団体にとってとても心強い。	
	ウ	市民団体への協力、対応窓口として積極的に取り組んでいる。	
	エ	相談件数が大幅に増加しており、相談相手としてのUMECOが着実に浸透している。	
	オ	相談・支援機能に力を入れてきたことがよくわかる。数値に表れている。	
	カ	相談事業については、比較的良好に機能していると思われる。	
	キ	団体の資金確保を支援する事業として、新規にUMECO市民活動応援補助金を開始した。	
ク	(UMECO市民活動応援補助金は交付実績がなかったことから、触れる必要があるかは疑問である。)		

課題	ケ	相談対応が不十分な事例もあったため、研修等で職員の資質向上を図り、相談機能を充実させていただきたい。	相談対応が不十分な事例もあったため、研修等による職員のスキルアップ、Q&A集の作成等により相談機能をさらに充実させるとともに、創意工夫による利用者サービス向上に努めていただきたい。
	コ	相談員のスキルアップやQ&A集（DB化も含めて）の作成を考えてみてはどうか。	
	サ	意見・要望に対して、直接対応できなくても工夫で見直しを図る取組も考えてはどうか。 例) 印刷室で1,000円が利用できないことについて、窓口で両替できることを印刷室や印刷機の料金投入口近くに分かりやすく表示するなど。	
	シ	相談機能のさらなる充実に努めていただきたい。	
	ス	補助金交付対象者として本当に相応しいか見極めることは難しいと思うが、フラットな中で事前にチェックできると良いと感じる。	
	セ	市民活動応援補助金に対する相談は7%程度と低く、同補助金の発信の仕方を工夫する必要がある。	
	ソ	市補助金の交付対象事業の内容の向上のため、事前相談体制の充実を図っていただきたい。	
	タ	寄附金の有効な使用方法を検討していただきたい。	
	チ	資金支援については、市制度とは異なる募集方法も検討するなどして、寄附が無駄にならないようにしてほしい。事業ごとのクラウドファンディングなども可能ではないか。	

③協働支援機能【3.1点（4点：2人、3点：7人、2点：1人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	地域に出向き、UMECOの協働支援機能を周知し、地域と市民活動団体との連携促進に努めた。	地域に出向き、市民活動団体との連携促進に努めたことを評価する。また、社会福祉協議会との協働についても、引き続き取り組むべきと考える。
	イ	地域への働きかけは評価できる。	
	ウ	社会福祉協議会との協働事業は良い取組と感じる。今後も引き続き協働が進むように取り組んでいただきたい	
課題	エ	協働の相手先となる事業者等が固定的かつ限定的なので、新規開拓していただきたい。	協働の相手先となる事業者等が固定的かつ限定的であることから、より広い視野でマッチングを行うとともに、実施後における継続的なフォローアップや事業成果の紹介等にも努めていただきたい。
	オ	企画に対し参加団体が固定されているように感じる。アピールの方策をさらに練っていただきたい。	
	カ	事業者との協働については、県協働事業で関わりを持った事業者との関係をつなげるなど、個々の事業成果を他に活かすような取組を進めるべき。	
	キ	とても協働支援が進んでいるとは考えにくい状況に思える。もっと広い世界を見渡してのマッチングを希望。	
	ク	企業と団体の連携のその後についての継続調査をしてほしい。	
	ケ	意見交換の結果を地域へフィードバックする取組も検討してみたいか。	
	コ	地域と市民活動団体との協働が増えないため、その要因を分析した上で、方策を検討していただきたい。	
	サ	地域との連携については、文化事業面に止まらず、地域課題解決に向けた発展を期待する。	
	シ	地域活動団体ネットワーク形成事業に関しては従前からの課題であり、具体的な新規開拓手法等が必要。	
	ス	自治会長会議等に出席し説明しているが、具体的内容は。	
セ	達成率が低い事業が散見されるため、改善を図っていただきたい。		

④学習・体験機能【3.7点（4点：7人、3点：3人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	多くの事業を継続し、市民や団体に学習・体験の機会を提供した。	夏休みボランティア体験学習や出張講座等多くの事業を継続し、若年層を含めた多くの市民や団体に、気軽な学習・体験の機会を提供した。
	イ	募集方法に工夫をし、夏休みボランティア体験者数が増えたことは評価できる。	
	ウ	多くの青少年がボランティア活動を体験できるなど、有意義な機会を提供している。	
	エ	若年層へのアプローチも進められており、評価できる。	
	オ	出張講座など、参加しやすい機会を提供しているのは良い。	
要望	カ	学生、若者が益々集う場所となるよう、より力を注いでほしい。	

課題	キ	NPO団体への働きかけ方を工夫していただきたい。	NPO法人や企業、学生等、各主体のニーズに応じた支援を、ヒアリング等を通じ検討し、強化していただきたい。	
	ク	学生に対しては少額でもよいので有償ボランティアも考えていってほしい。 ※募金等があれば協力したい		
	ケ	アンケート等、事後のヒアリングを徹底して欲しい。		
	コ	参加者数が目標値に達しなかった事業があるため、市民や団体の学習ニーズを確認し、内容を見直していただきたい。		
	サ	市の市民学校とも連携しつつ、学習を経た市民が実際の市民活動につながるような仕組の強化を期待する。		生涯学習事業と連携し、学習を経た市民が活動に参加する等、各団体も活性化できるような仕組の強化を期待する。
	シ	インターンシップの希望者がいなかったのは残念であり、訴求力の高い発信を行う必要がある。		
	ス	各団体が活性化できるような事業をさらに充実してほしい。		

⑤交流・コーディネート機能【3.4点（4点：5人、3点：4人、2点：1人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	地域課題の解決を意識した交流事業を行い、団体同士及び団体と地域との連携促進に努めた。	例年よりも地域課題の解決を意識した交流事業を行い、団体が同じ分野の団体や地域と連携できるよう努めた。また、学生を起用した取組を評価する。
	イ	例年の企画として定着し、市民活動の同窓会の様相を呈していて頼もしい。	
	ウ	わくわく交流会において、地域課題をテーマとして取り上げ、課題意識の喚起を図った。	
	エ	高校生を起用した取組が、団体からも好印象である。	
課題	オ	交流から市民活動の実践へと進むように、方策を検討していただきたい。	交流から市民活動の実践へと進むように、コーディネート力の向上など、方策の検討を行っていただきたい。
	カ	担当職員のコーディネート力を養うなど、実効性が高くなるように努めてほしい。	
	キ	趣味、教養といった要素が強いものは、事業としての必要性を検討していただきたい。	参加する事業のテーマ等を明確に周知し、今まで参加していない団体も取り込んでいただきたい。また、趣味、教養といった要素が強いイベントを中心に、事業としての必要性やマンネリ化を避ける方策を検討していただきたい。
	ク	同じ顔ぶれで何となく集まるのではなく、「小田原のまちのちょっと先」を、テーマごとに話せる場になると良い。	
	ケ	全体的に参加者が減少しており、マンネリ化している可能性があるのではないか。	

⑥情報の集約・発信機能【3.2点（4点：2人、3点：8人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	多様な媒体を活用して情報発信をした。	複数の媒体を活用して情報を発信しており、訴求力を高めた。
	イ	各種媒体により訴求力を高めた。	
	ウ	実績数に問題はない。	
課題	エ	事業効果が分かりやすい指標を設定していただきたい。	フェイスブックの「いいね」数等、情報の受け手を意識した指標を設定することで、事業効果が明確になると考えられる。
	オ	FBのいいね数が少ないので、周知方法を検討していただきたい。	
	カ	効果についてわかりづらい。発信に対する反応を知りたい。	
	キ	自治会等の地域の団体が地区でイベントを開催するときに、どのような支援団体があるかを簡易に検索し、連絡できるネットワーク上の仕組を検討してみてもどうか。	地域の方が団体を検索しやすいホームページ、メールマガジン等の若者向けの手法、スピード感がありわかりやすい情報発信、UMECOを利用していない市民へのアプローチ方法の工夫等、検討していただきたい。
	ク	メールマガジンがないので、既存の広報をメール配信する等検討していただきたい。	
	ケ	メルマガ等、若い団体へのアピールを実施できる方策を練ってほしい。	
	コ	情報はスピードが重要であるが、内容もわかりやすく、簡素にする必要がある、その精査を実施してほしい。	
	サ	UMECOの存在を知らない市民へのアプローチについて、一層の工夫を期待する。	

(2) その他

①男女共同参画【3.0点（3点：10人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	事業を継続し、男女共同参画に関する学習機会を提供した。	事業を継続し、男女共同参画に関する学習機会を提供した。
課題	イ	人権・男女共同参画課との役割分担を明確にし、主体的に取り組んでいただきたい。	適切なテーマ設定等を検討し、主体的に取り組んでいただきたい。
	ウ	男女共同参画の観点から、今回のテーマは妥当性があったとは感じない。	
	エ	地域活動での女性の活躍についても取組を期待する。	

②国際交流【2.8点（3点：8人、2点：2人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	国際交流団体（特に日本語教室）に活動エリアを提供した。	国際交流団体（特に日本語教室）に活動エリアを提供した。
課題	イ	国際交流をテーマとした事業を実施していただきたい。	国際化に視点をあてた事業を拡大するとともに、団体の自主的な連携を後押ししていただきたい。
	ウ	「国際化」に視点をあてたテーマで事業を実施していただきたい。	
	エ	今後も積極的に取り組んでいただきたい。	
	オ	自主事業としての取組を期待する。	
	カ	企画展のうち、「地球市民フェスタポスター」を事業としてとらえることができれば、以下のようにするのも一案かと思われる。 国際交流をテーマとした事業を拡大していただきたい。	
	キ	活動主体の事業や、交流会もあって良いかと思う。	

II コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.9点（5点：1人、4点：7人、3点：2人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	多くの事業を通じて、市民活動を始める「きっかけの場」を提供しており、コンセプトをおおむね達成したと考えられる。	多くの事業を通じて、市民活動を始める多彩な「きっかけの場」を提供しており、コンセプトをおおむね達成したと考えられる。
	イ	さまざまな事業に、全員が精力的に活動してくださっていることに心より感謝する。何かいきづまったことがあっても、一緒に解決しようとする市民団体を取り込んでいることに双方の信頼関係を感じる。	
	ウ	登録団体数増加、SNSでの発信等、拠点としてのコンセプトは達成している。	
	エ	年間を通して多忙な中、多彩な「きっかけの場」を企画、運営されている。	
要望	オ	新型コロナウイルス感染症予防をしていかなければならないが、つながりを生み出すきっかけの場としての役目を今後も担ってほしい。	
課題	カ	UMECOの事業における「きっかけづくり」が占める割合は高いが、市民活動を始める「きっかけの場」というコンセプトよりも、集客のための趣味、教養といった要素が強い事業があるため、事業の見直しを検討していただきたい。	趣味、教養といった要素よりも「きっかけの場」としてふさわしい内容を意識することが望ましい。特に学習・体験において、気軽に参加でき、その後も継続的に市民活動に関われるような工夫を期待する。
	キ	全体のコンセプトとしては達成しているが、事業別にみると改善が必要な事業があり、より「きっかけの場」としてふさわしい内容にしてほしい。	
	ク	特に、学習・体験を通じたきっかけの場については、事業後も参加者が継続的に市民活動に関われるよう、事業内容の工夫やフォローをしていただきたい。	
	ケ	「誰でも気軽に」とうたう名称、視点と、事業の機能（協働支援や学習体験など）がフィットしていない感がある。	
	コ	UMECOを知らない市民へのアプローチをさらに強化してほしい。アウトリーチの検討を期待する。	UMECOを利用していない市民にアウトリーチを行ったり、NPO法人や事業者に働きかけたり、UMECOを訪れた若者を活動に誘い込むような取組を強化していただきたい。
	サ	若者をより取り込めるような企画を期待する。	
	シ	UMECOを訪れる高校生等を活動に誘い込むような取組も検討してほしい。	
	ス	NPO、企業、学生、若者に対するフォローを強化していただきたい。	

②シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場【3.2点（4点：2人、3点：8人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	事業を通じて団体等の連携や交流が見られ、「行動の場」づくりに取り組んだと考えられる。	事業を通じて団体等の連携や交流が見られ、次につながる「行動の場」づくりに取り組んでいる。
	イ	交流会は様々な団体とリアルに接する良い機会。リラックスできる雰囲気の中、互いを紹介し合ったり、情報交換しながら「次」につながる場づくりに成功している。	
要望	ウ	声の万華鏡が例年の活動として認識され定着されたように感じるので、つぎなるコンセプトの企画を期待する。	すでに定着している「朗読」だけでなく、広く連携できる分野と団体を開拓し、「行動の場」としてさらに充実させていきたい。
課題	エ	団体同士の交流事業について、分野が朗読に固定されているため、より広範な分野で連携を推進していただきたい。	
	オ	「朗読」だけでなく、広く連携できる分野と団体を開拓して欲しい。	
	カ	「行動の場」に関する事業が少ないため、事業を充実させていただきたい。	
	キ	参加団体が固定的であり、また、NPO法人の参加が少ないため、より多くの団体に働きかけていただきたい。	NPO法人を含む、新たな団体が参加したくなる仕掛けづくりや、団体同士の相乗効果を引き出すコーディネート进行を期待する。
	ク	参加していない団体が参加したくなるような仕掛けづくりを望む。	
	ケ	交流会の顔ぶれが「おなじみ」になってきている。真新しさを感じさせる工夫もあると良い。	
	コ	団体同士の連携により活動自体に広がりがあったかは疑問であり、シナジーが生まれる事業も検討してほしい。	
	サ	団体間の交流については、より機会を増やしていけるようにしていただきたい。	

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点（4点：2人、3点：7人、2点：1人）】

区分	項番	意見	評価文案
成果	ア	社会貢献を「実現する場」づくりを目指して、特に、地域活動団体ネットワーク形成事業は事業改善に努めており、今後の展開が期待される。	社会貢献を「実現する場」づくりを目指して、特に地域活動団体ネットワーク形成事業は地域でのヒアリングに取り組むなど事業改善に努めており、今後の展開が期待される。
	イ	地域の課題を解決する行動への支援には、地域に出向き、ヒアリングを重ねるなど熱心に取り組まれていると思う。	
	ウ	高齢になっても自由に楽しく活動する場所を提供しているというだけでも十分に「社会貢献」であると考えている。	
課題	エ	地域活動団体ネットワーク形成事業の実績が文化・生涯学習の分野に偏っていたため、多様な分野で実績を得られるよう努めていただきたい。	地域課題の解決に向け、現状は分野が偏っていることから、より多様な分野における地域活動団体のニーズを市民活動団体が知り、活動の実践につなげる場を設定していただきたい。
	オ	「実現の場」に関する事業の内容を充実させ、地域での活動の実践を重ねていただきたい。	
	カ	より地域の課題解決へ資する活動内容にしてほしい。	
	キ	地域活動団体の課題やニーズを市民活動団体が知り、協力できるような場の設定を充実してほしい。	事業の実施にあたっては、連携により協働の発展が見込める事業者等の選定、SNS等を活用した参加機会の増大などを意識していただきたい。
	ク	協働支援はコーディネート力が求められる。登録団体のそれぞれのインサイトを捉えたり、事業者との出会いからどんなハレーションが起きる可能性があるか創造力も必要。スタッフの皆さんに期待する。	
	ケ	事業者との協働実績が一つの事業者のみだったため、連携先を新規に開拓していただきたい。	
コ	SNS等を使用し、直接会わずともより活動の場が広がる企画を期待する。		

まとめ

市民活動を始める多彩な「きっかけの場」を継続して提供している。特に今年度は地域課題の解決を意識して事業に取り組んでおり、評価することができる。各コンセプトの事業配分を調整しながら、社会貢献につながる「実現の場」の拡大を引き続き目指していただきたい。

また今後も、地域コミュニティ組織と市民活動団体をはじめとした、幅広い分野、団体のニーズや特性を把握し、継続的、実践的な協働関係につなげられるようマッチングしていただきたい。

併せて、UMECOを利用していない市民や、交流エリアを利用している若者、事業に参加していない団体やNPO法人等、PRの余地が残されていたり、取り込むことにより事業の活性化が期待できる層に対する、それぞれに応じた働きかけの強化を望む。

評価点レーダーチャート

—— 令和元年度 - - - 平成30年度

